

製品名: cPLA2 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab09314

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	110kDa

抗原情報

遺伝子名	PLA2G4A
別名	PLA2G4A; CPLA2; PLA2G4; Cytosolic phospholipase A2; cPLA2; Phospholipase A2 group IVA
遺伝子 ID	5321.0
SwissProt ID	P47712
免疫原	抗血清はヒト c-PLA2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 471-520

背景

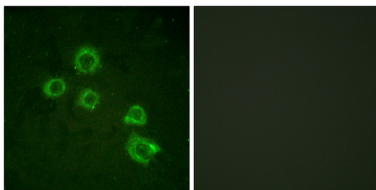
この遺伝子は、細胞質ホスホリパーゼ A2 グループ IV ファミリーのメンバーをコードしています。この酵素は膜リン脂質の加水分解を触媒し、アラキドン酸を遊離させます。アラキドン酸はその後、エイコサノイドへと代謝されます。プロスタグランジンやロイコ

トリエンなどのエイコサノイドは、血行動態、炎症反応、その他の細胞内経路を調節する脂質系細胞ホルモンです。この加水分解反応は、血小板活性化因子に変換されるリゾリン脂質も生成します。この酵素は、細胞内 Ca(2+)濃度の上昇とリン酸化によって活性化され、細胞質および核から核周縁膜小胞へと移行します。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2015年7月],触媒活性: 2-リゾホスファチジルコリン + H(2)O = グリセロホスホコリン + カルボン酸塩。触媒活性: ホスファチジルコリン + H(2)O = 1-アシルグリセロホスホコリン + カルボン酸塩。ドメイン: N末端C2ドメインは、脂質膜との結合により、細胞質 Ca(2+)の上昇に反応して活性部位を基質に提示することにより、CPLA2の調節を媒介します。酵素調節: ATP、EGF、トロンビン、ブラジキニンなどのアゴニスト、および細胞質 Ca(2+)によって刺激されます。機能: sn-2位のアラキドン酸リン脂質を選択的に加水分解し、アラキドン酸を放出します。リゾリン脂質活性とともに、炎症反応の開始に関与しています。PTM:Ser-505 と Ser-727 の両方のリン酸化によって活性化されます。類似性:1つのC2ドメインを含みます。類似性:1つのPLA2cドメインを含みます。細胞内局在:カルシウム依存的に膜小胞に移行します。サブユニット:HTATIPと相互作用します。組織特異性:マクロファージ、血小板、好中球、線維芽細胞、肺内皮などのさまざまな組織で発現します。、

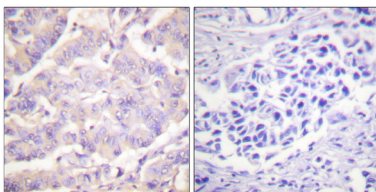
研究分野

グリセロリン脂質代謝、エーテル脂質代謝、アラキドン酸代謝、リノール酸代謝、α-リノレン酸代謝、MAPK_ERK_Growth、MAPK_G_Protein、血管平滑筋収縮、VEGF、FcεRI、FcγRを介した貪食作用、長期抑制、GnRH;

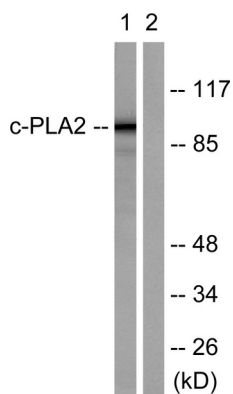
画像データ



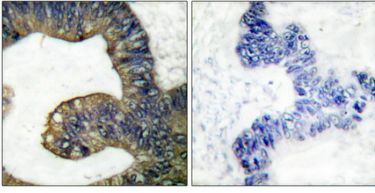
c-PLA2抗体を用いたHUVEC細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



c-PLA2抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



TNF-α 20 ng/ml 30μL 処理した HeLa 細胞ライセートの c-PLA2 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックした。



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。